

はじめて発掘されたチンパンジー化石

First chimp fossil unearthed

50 万年前のチンパンジーの歯の化石が、ヒトとチンパンジーに分かれて進化したわけを解き明かす。

doi:10.1038/news050829-10/31 August 2005

Michael Hopkin

東アフリカのほこりだらけの荒地を掘っていた古生物学者が、チンパンジーとして初めての化石を発見した。歯がわずかに3本というささやかな収穫ではあるが、現在のチンパンジーにつながる進化の道のりを示す、初の確かな証拠である。

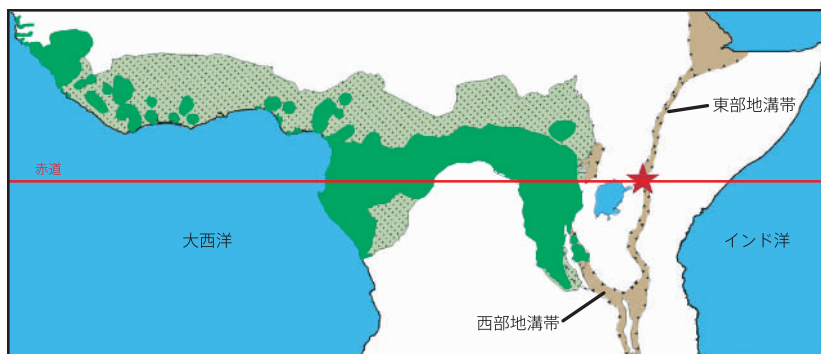
この発見はチンパンジーそのものの進化に光を当てただけでなく、ヒトの進化についても新たな疑問を生みだしている。チンパンジーとヒトはかつて考えられていたように、物理的に隔離されたことで別の進化の道をたどったわけではないようなのだ。

同僚の Nina Jablonski とともにケニアのバリゴ湖付近で今回の発見をした、コネチカット大学の人類学者 Sally McBrearty は「チンパンジーの化石がこれまで長い間ずっと発見されてこなかったことに苛立ちを覚えていた」と話す。ヒトの化石が東アフリカで多数発見されているのに対して、チンパンジーの進化を物語る実例がないとは、納得のできない話だった。

McBrearty は「死体が残りにくい高温多湿の密林地域にチンパンジーが住んでいたことも、これまでチンパンジーの化石がなかなか見つからなかった一因だ」と語る。一方、ヒトは骨が比較的腐りにくいサバンナに、何千年も住んでいたと考えられている。

大地溝帯

これまで、チンパンジーは大地溝帯の東には渡らず、アフリカ西部および中部の密林にとどまっていたと考えられてきた。そして、この物理的隔離こそがチンパンジーとヒトの祖先の対照的な進化の道のりにつながったのだという考えさえあった。しかし今回、McBrearty は大地溝帯の東側にチンパンジーの痕跡を発見した。



アフリカの赤道付近。緑色は現在のチンパンジーの生息地域、点描（緑色）は過去に生息していた地域を示す。★は今回、初めてチンパンジーの化石が発見された、Kapthurin 壘層（ケニア）の位置を示す。

「つまり、チンパンジーとヒトが別々の進化の過程を歩むことになった経緯について、これまでとは別の説明が必要となったことを意味している」と McBrearty は話す。チンパンジーが密林だけではなく半乾燥地域にも住んでいたことがわかり、サバンナへの移動がヒトの直立歩行をもたらしたとする単純な考え方ではもはや説明がつかない。

McBrearty と Jablonski は 9 月 1 日号の *Nature* で、見つかったチンパンジーの歯が約 50 万年前のものであると発表している¹。それが現在のチンパンジー *Pan troglodytes* と同一種のものであるのか、それともすでに絶滅した名もない祖先のものであるのか、現時点では決めることができない。「絶滅したチンパンジー種がたくさんあったとしても不思議ではない」と McBrearty は話す。

もし今回の歯が現在のチンパンジーと同一種のものだとすれば、この種が長く続いているということになる。それに対して、現在のヒト属ホモ・サピエンスは歴史上に姿をあらわしてからまだ 20 万年程度である。しかし、さらに以前にあらわれたヒト属ホモ・エレクトゥスは約 100 万年にわたって存在していたと考えられている。

祖先探し

「この化石は、500 万～700 万年前に存在したチンパンジーとヒトの共通祖先に関する情報を与えてくれるほど古いものではない」とハーバード大学（米国マサチューセッツ州ケンブリッジ）の人類学者 Daniel Lieberman は指摘するが、「さらに古い手がかりが発見されるのではないかという期待ができた」と語る。

McBrearty は、「西アフリカの密林にはさらに多くのチンパンジーがいた可能性があるものの、化石は乾燥した東部のサバンナの方に多く残っているのではないか」と考えている。「(これまで) だれも探していなかっただけのことだ」。

McBrearty は 12 月にケニアに戻って発掘を再開する予定だ。焼けつくような赤道の暑さではあるが、乾燥した 12 月は傷みやすい化石を探すのに絶好の時期である。 ■

1. McBrearty S. & Jablonski N. G. *Nature*, **437**, 105-105 (2005).